

ツボ刺激を応用した口腔乾燥症へのアプローチ

○市村 葉¹、片山伊九右衛門¹、竹下 玲²、岡田嘉代³、安井利一²、片山 直¹

明海大学歯学部機能保存回復学講座保存修復学分野¹

明海大学歯学部社会健康科学講座口腔衛生学分野²， 広島市開業³

【緒言】 歯科医療においても統合医療の導入の必要性は痛感するところである。われわれは、実際の歯科臨床において、東洋医学を主体としたハリ療法を応用することで効果をあげ、報告してきた。未だ、ツボ、経絡の実態においては不明な点も多いが、効果のあることは様々な分野からも報告されている。今回は、口腔乾燥症状を訴える患者を対象に、ハリ療法にてアプローチした。実際に鍼を用いたものと、レーザーニードルとの比較もおこない、その効果について検討したので報告する。

【目的】 口腔乾燥症状を訴える患者に、ハリ療法をおこない、症状の改善や、効果の持続性について検討をおこない、より有効なツボ選択を目指した。

【対象・方法】 対象は、本研究の主旨を充分理解し、同意の得られた口腔乾燥症状を訴える被験者3名とした。施術部位は、口腔領域に関与すると言われている、合谷、地創、YNSA診断下にて必要と思われるポイントを選択し、40分間置針した。術前の安静時唾液をコントロールとし、刺激直後から10分間隔で40分後までの唾液をロールワッテに採取し、その重量の変化をデータとした。同様に、レーザーニードルにて刺激をおこない、比較検討をおこなった。

【結果・考察】 ツボ刺激後40分後には、唾液分泌量の変化がみられた。ハリによる刺激、レーザーニードルによる刺激共に同様の効果を示した。また、継続治療をおこなったほうが、口腔乾燥状態の改善傾向が認められた。これらの変化の詳細はさらにデータを収集し検討する予定である。

【結論】 ツボ刺激を応用したハリ療法により、口腔乾燥症状の改善が示唆された。